

神戸輝夫の 二豊漢学講座

2025年度(第九期)

大分県の文化的土壌の底層には二豊（豊前・豊後）の各地で花開いた漢学が息づいています。漢学とは特に江戸時代に学ばれた中国伝来の学問の総称で、具体的には哲学、歴史学、文学、地理学、漢方（医学）、本草学、天文学、数学、農学、書道、絵画、武術などの分野に及んでいます。この講座では、二豊の著名な漢学者について紹介します。

かんべてるお

講師：神戸 輝夫

元APU孔子学院学院長、前APU教授、大分大学名誉教授

1939年4月 京都生まれ

1964年3月 京都大学文学部史学科(東洋史学専攻)卒業

1966年3月 京都大学大学院文学研究科修士課程修了

1970年3月 同博士課程単位取得満期退学

大分大学教育学部長、放送大学大分学習センター長などを歴任。

主な研究分野は、中国における漢族と少数民族の摩擦問題、

アジア・太平洋戦争期における日本の中国文化侵略、

大友宗麟時代の中国・朝鮮・東南アジア交流史研究、

シルクロード文化史研究。

2017年11月 瑞寶中綬章 受章



二豊に関わりの深い
漢学について
一緒に学びましょう

前期 【第一回】 5月22日(木) 13:00~14:30

「廣瀬旭荘と亀井昭陽の交流—昭陽の「傷逝録」をめぐって」

【第二回】 6月12日(木) 13:00~14:30

「田能村竹田と雲華上人の交流—芙蓉残雪図をめぐって」

【第三回】 7月3日(木) 13:00~14:30

「杵築藩、日出藩における和算学」

後期 ※詳細が決まり次第お知らせいたします

【第四回】 10月 「漢学者の顕彰する市井の人物像」

【第五回】 11月 「三浦安貞（梅園）と根来東林、麻田剛立の交流」

定員：各回100名

会場：J:COMホルトホール大分 大会議室

受講料：無料

※開始30分前から入場可

お申込み：不要

※後期の会場は未定

神戸輝夫の二豊漢学講座

2025年度(第九期)

前期講座の内容

【第一回】5月22日(木) 13:00~14:30

「廣瀬旭荘と亀井昭陽の交流—昭陽の「傷逝録」をめぐって」

廣瀬淡窓の咸宜園が福岡藩儒者亀井南冥・昭陽父子の教導が無ければ成立しなかったように、廣瀬旭荘の学問も亀井昭陽の塾に入門して初めて成長を遂げる。旭荘の入門は17才の時である。

この二人の師弟間にどのような交流があったのか明らかにする。

【第二回】6月12日(木) 13:00~14:30

「田能村竹田と雲華上人の交流—芙蓉残雪図をめぐって」

竹田は自ら富士に登ることは無かったが江戸を往復した際に冠雪した富士の威容を眺めている。彼の富士登山へのあこがれは同郷の友人雲華上人に托された。

芙蓉残雪図の賛に込められた二人の交流を読み解く。

【第三回】7月3日(木) 13:00~14:30

「杵築藩、日出藩における和算学」

和算は江戸時代の日本で独自に発展した数学である。その水準は当時のヨーロッパのそれと比較して遜色がない。ただ地方の諸藩に於いてどのような和算学が展開したのか資料がほとんどない。

杵築藩、日出藩の漢学者が取り組んだ貴重な例を紹介する。

お申込みについて

受講のお申込みは不要です。受講日当日に会場へお越しください。

なお、今後のご案内送付の為、会場にてご住所等をご記入いただく場合がございます。

お問合せ

立命館アジア太平洋大学 孔子学院事務局 (平日10:00~17:00)

住所：〒874-8577 大分県別府市十文字原1-1

立命館アジア太平洋大学 BⅡ棟1階

電話：0977-78-1188

FAX：0977-78-1189

メール：confuapu@apu.ac.jp

ホームページ：http://apu-confucius.com/